

日本教育方法学会

第49回大会プログラム

前日 10月4日(金)	15 : 30	全国常任理事会（ラフレさいたま）							
	17 : 00	理 事 会 受 付							
	17 : 30	全 国 理 事 会（ラフレさいたま）							
	19 : 00								

第 一 日 10月5日(土)	8 : 30	受 付 開 始							
	9 : 15	課題研究Ⅰ 教材・教具デジタル化の功罪				課題研究Ⅱ 子どものモラル・道徳の教育にどう取り組むか			
	11 : 15								
	11 : 20								
	12 : 10	総 会							
	13 : 00	休 憩							
		自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8
	15 : 40								
	15 : 50	公 開 シ ン ポ ジ ウ ム 授業研究による教師の力量形成							
	18 : 20								
	18 : 30								
	20 : 00	会 員 懇 親 会							

第 二 日 10月6日(日)	8 : 30	受 付 開 始							
	9 : 00	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	
	12 : 10								
	13 : 15	休 憩							
		課題研究Ⅲ 教育方法学の学問的固有性とは何か ― 教育方法学の研究方法 ―			課題研究Ⅳ 学びの共同体の意義と課題の検討		課題研究Ⅴ 学校教育における思考力の育成 ― 感性に着目して ―		
	15 : 15								
	15 : 30								
		ラウンドテーブル ①		ラウンドテーブル ②		ラウンドテーブル ③		ワークショップ ①	
	17 : 00								

2013年10月5日(土)・10月6日(日)

於 埼玉大学
後援 埼玉大学

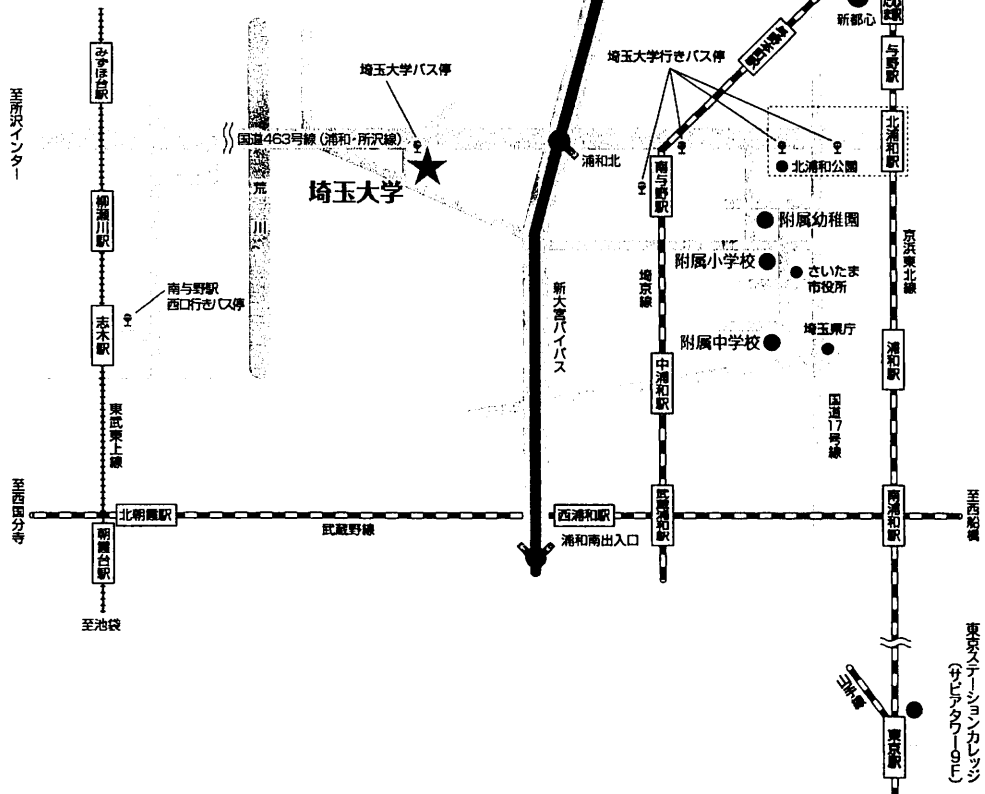
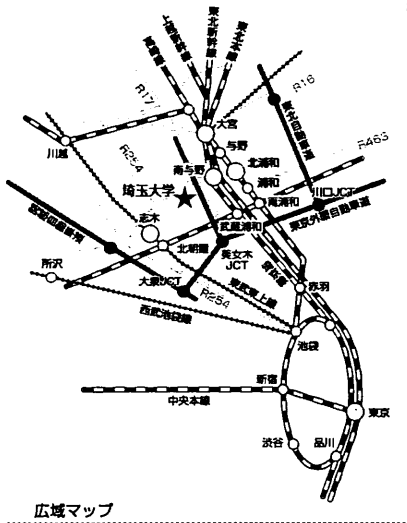
大会参加要領

1. 会場案内：会場は、埼玉大学です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：両日ともに8：30からとなります。
受付は教育学部C棟1階で行います。
 - ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法42』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は4,000円となっております。詳しくは、13頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：土曜日・日曜日両日とも生協食堂が営業しております。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をご覧ください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
 - 個人研究：発表20分 質疑10分
 - 共同研究：発表30分 質疑10分

（但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。）
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。

※大会に関するお問い合わせは、3日前の10月2日までに学会事務局 (hohojimu@riise.hiroshima-u.ac.jp) にお問い合わせください。

〈埼玉大学案内図〉



〈交通手段のご案内〉

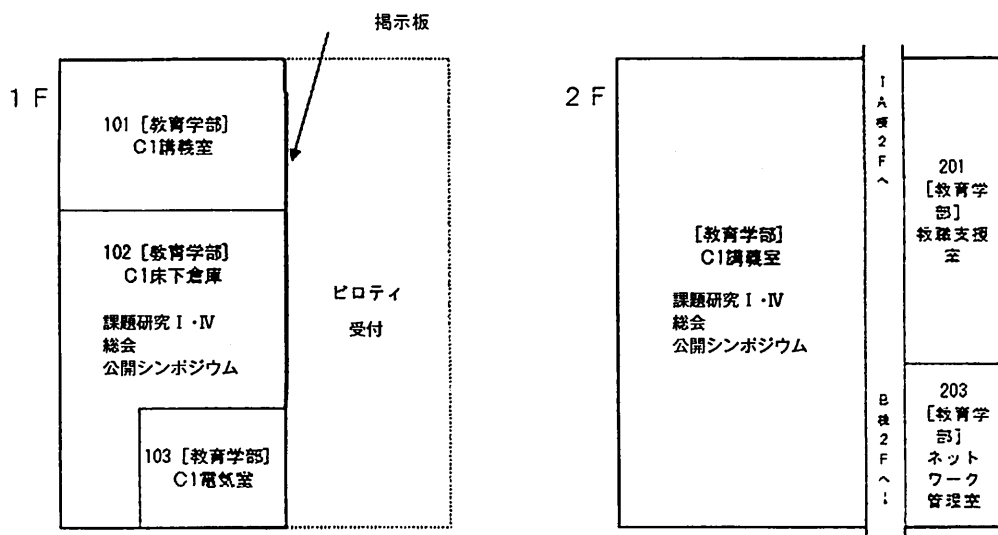
- 東京駅から JR 京浜東北線で北浦和駅まで35分、北浦和駅西口のバス停より埼玉大学行きバスで約15分
- 池袋駅から JR 埼京線で南与野駅まで32分、南与野駅西口のバス停あるいは徒歩2分のところにある北入口バス停より埼玉大学行きバスで約10分

※平和タクシー 048-832-1515

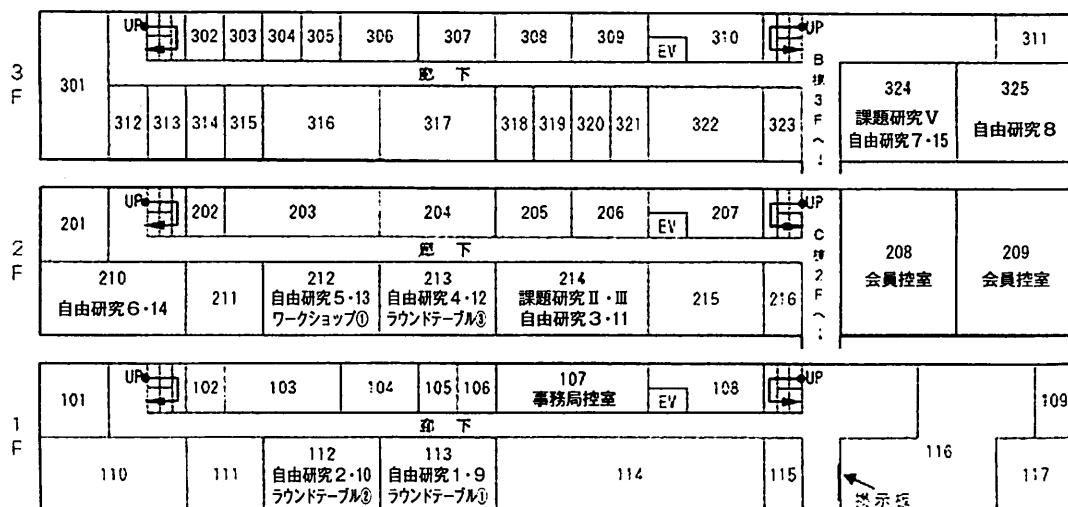
平和観光タクシー 0120-400-302

〈教室配置図〉

教育学部C棟



教育学部A棟



課題研究 I

教材・教具デジタル化の功罪

(教育学部C棟C1講義室)

コーディネーター・司会者

大野 栄三 (北海道大学)

小柳 和喜雄 (奈良教育大学)

提案者

堀田 龍也 (玉川大学) 21世紀に求められる力と授業における ICT 活用 25

本田 敏明 (茨城大学) 授業における ICT 活用と教育方法学研究
ーグラウンデッド・セオリー・アプローチを中心にー 27

柴田 好章 (名古屋大学) 授業における ICT 活用の成果と課題 29

〈設定趣旨〉

20世紀にパソコンが登場し、情報通信技術（以下、ICT）を授業に活用する試みが続けられてきた。近年のスマートフォンとタブレット端末の急激な普及には、これまでにない質的变化を学校教育にもたらすのではと思わせるインパクトがある。このような技術革新と歩調を合わせるかのように、教科書デジタル化やフューチャースクール推進事業（総務省）など、学校でICTを活用する新たな試みが展開されている。本課題研究では、ICT活用が個々の授業にどのような変化をもたらし、子どもの教育環境にどのような影響を与えるのかを、教材・教具のデジタル化という視点から討議する。堀田龍也氏からは、授業におけるICT活用が開く「21世紀に求められる力」について、本田敏明会員からは、教育方法学研究はICTの活用で変貌する授業にどのように迫るのかを、柴田好章会員からは、授業でICTが活用されている現状、これまでの成果と課題について提案していただく。

課題研究Ⅱ

子どものモラル・道徳の教育にどう取り組むか

(教育学部A棟214講義室)

コーディネーター・司会者

梅原利夫(和光大学)

三橋謙一郎(徳島文理大学)

提案者

奥平康熙(和光学園) 子どもの生活課題に即して道徳問題へ
—安心、アイデンティティ、社会づくり—

..... 31

滝口正樹(東京都板橋区立板橋第三中学校) 「人間を育てる」道徳教育の実践

—「道徳の時間」と教科(社会科)・総合・学校行事をリンクさせた人権・平和学習—

..... 33

藤井啓之(愛知教育大学) 現代的・人類的課題に挑む知性とモラルを育てる

..... 35

〈設定趣旨〉

暴力・いじめによる人権の蹂躪や自尊感情の低下など、子どものモラル・道徳の形成をめぐる困難な状況が広がっており、その教育にどのように取り組むかは、教育方法学にとっても重要な課題になってきている。そもそも、子どもたちの「やる気」を呼び起こしたり、人間的に望ましい情動性・感受性を鍛え、育てていく上で、学校教育において達成可能なことは何なのだろうか。道徳的心情等の形成にあたって、我が国ではかつての修身教育のように、言葉で説明し、説得しようとする傾向が強い。そのような道徳教育の強化に対して、改めて人間的な価値をどう教え、育てるかということが真剣に検討されなければならない。

新学習指導要領において道徳教育は、「道徳の時間を『要』として学校教育の全体を通じて行うもの」とされている。しかし道徳の時間は、現実には指導が形式化しており、学年が上がるにつれて子どもたちに好意的に受けとめてもらえていないことが、文科省の調査でも明らかにされている。

本課題研究では、こうした子どもたちのモラル・道徳の教育をめぐる現代の学校現場ではどうしたらよいのか、教育方法学の立場から積極的な提案と検討を行っていきたい。

10月5日(土) 13:00~15:40

自由研究1

(教育学部A棟113講義室)

司会者：大田 邦郎 (千葉大学)
吉崎 静夫 (日本女子大学)

- 13:00 ① フィードバック実践における子どもの役割の考察
—小学校1年生算数授業の比較を通して— 37
山本 佐江 (東北大学大学院)
- 13:30 ② フクシマ後を生きる子どもたちに必要な数学的リテラシー 38
小寺 隆幸 (京都橘大学)
- 14:00 ③ 授業の文化的スクリプトに関する国際比較研究
—マレーシアにおける高校数学の授業観の分析を中心に— 39
サルカール アラニ・モハメッド レザ (帝京大学)
- 14:30 ④ 算数は生活に役立つものとなっているか
—大学生の実態調査を踏まえて— 40
斎藤 裕 (新潟県立大学)
- 15:00 ⑤ 中間項による授業の記述とデータ解析に関わる諸問題の検討 41
○柴田 好章 (名古屋大学), ○坂本 篤史 (星城大学・客員講師)
○須田 昂宏 (名古屋大学大学院), ○付 洪雪 (名古屋大学大学院)
○丹下 悠史 (名古屋大学大学院), ○副島 孝 (愛知文教大学)
中道 豊彦 (愛知県立知多翔洋高等学校), 水野 正朗 (名古屋市立桜台高等学校)
埜崎 志保 (名古屋大学大学院)

自由研究2

(教育学部A棟112講義室)

司会者：鹿毛 雅治 (慶應義塾大学)
松下 佳代 (京都大学)

- 13:00 ① E. アイズナーの「教育批評」における記述と解釈の関連性の検討
—教育実践者の批評的行為の質的な高まりを目指して— 42
近藤 茂明 (名古屋大学大学院)
- 13:30 ② Shirley Clarke の形成的アセスメントの実践的方法 (その2) 43
安藤 輝次 (関西大学)
- 14:00 ③ 教育目標論としての「生きる力」論の成立過程 44
佐藤 年明 (三重大学)
- 14:30 ④ 授業研究における「ピザ型」学力評価枠組みの構築 (1)
—教材内容構成への子どもの参加を観点として— 45
尾島 卓 (岡山大学)
- 15:00 ⑤ テスト作成過程の思考にみる中学校教師の実践的知識 (3) 46
○細川 和仁 (秋田大学)
後藤 真一 (後藤教育研究所)
浅田 匡 (早稲田大学)

自由研究3

(教育学部A棟214講義室)

司会者：白石陽一(熊本大学)
佐久間亜紀(大東文化大学)

- 13:00 ① 同僚との「対話リフレクション」による授業リフレクション
—「授業リフレクション研究」と「カード構造化法」による相互補完的な授業研究— … 47
○芥川元喜(お茶の水女子大学附属小学校)
澤本和子(日本女子大学)
- 13:30 ② 授業の計画可能性に関する一考察
—教授学モデルとH・キーパーの授業論を手がかりに— …… 48
吉田成章(広島大学)
- 14:00 ③ 授業に対する教師の省察過程に関する一考察(2)
—教師の省察が深化するしくみに焦点をあてて— …… 49
吉永紀子(福島大学)
- 14:30 ④ 「授業研究」のグローバル化とローカル化に関する研究
—英国における教員研修改革と授業研究の関連に着目して— …… 50
久野弘幸(愛知教育大学)
- 15:00 ⑤ 教員志望学生の社会科授業プランになぜ違いが生じるのか?
—教科指導力の育成のあり方に示唆するもの— …… 51
○渡邊巧(広島大学大学院)
○大坂遊(広島大学大学院)
○草原和博(広島大学)

自由研究4

(教育学部A棟213講義室)

司会者：小原友行(広島大学)
折出健二(愛知教育大学)

- 13:00 ① 話し合いを中心とした社会科授業における公共性の認識の深化に関する研究 …… 52
埜崎志保(名古屋大学大学院)
- 13:30 ② 貧困問題の授業における当事者性に関する一考察 …… 53
平田知美(和歌山大学)
- 14:00 ③ シティズンシップ教育の実践に関する一考察 …… 54
木村哲郎(新潟薬科大学)
- 14:30 ④ 他者・社会との関係性を基盤とした高校実践の検討
—英語の授業とシティズンシップ教育— …… 55
○高橋亜希子(北海道教育大学)
○望月一枝(秋田大学)

10月5日(土) 13:00~15:40

自由研究5

(教育学部A棟212講義室)

司会者：川 合 春 路 (大阪樟蔭女子大学)

湯 浅 恭 正 (大阪市立大学)

- 13:00 ① グループ学習内の子どものケアリングに関する定性的研究
 ー言語活動に着目してー 56
 藤 井 佑 介 (福井大学・特命助教)
- 13:30 ② 特別支援教育における「学び合い学習」の意義について
 ー全障研と全生研の実践に注目してー 57
 村 上 美奈子 (立 正 大 学)
- 14:00 ③ 「学び手」と「対象」を結ぶ作用としての「他者」
 ー発言記録を学び手自身が辿り直すことによって浮かび上がるものー ... 58
 大 杉 稔 (滋賀県高島市立新旭北小学校)
- 14:30 ④ 対話による知識の共同構築を促進する学習課題
 ー構造がもたらす教科固有性と普遍性ー 59
 水 野 正 朗 (名古屋市立桜台高等学校)
- 15:00 ⑤ 小学校体育科のボール運動の授業における学習集団の形成過程に関する事例研究
 ーエンゲストロームの活動理論を手がかりとしてー 60
 ○加登本 仁 (滋 賀 大 学)
 大後戸 一 樹 (広 島 大 学)
 木 原 成一郎 (広 島 大 学)

自由研究6

(教育学部A棟210講義室)

司会者：池 野 範 男 (広 島 大 学)

田 代 高 章 (岩 手 大 学)

- 13:00 ① 人権学習における体験的活動の意義について
 ー熊本県山鹿市の実践からー 61
 石 村 秀 登 (熊 本 県 立 大 学)
- 13:30 ② 「エネルギーを考える」学習 (奈良女附小・杉澤学教諭) にみる
 子どもの自律的な探究の展開とそのカリキュラムの意義
 ー子どもと共に創る学習展開の豊かさを考えるー 62
 宇佐見 香 代 (埼 玉 大 学)
- 14:00 ③ 危機管理の発想によるいじめ対策プログラムの検討
 ーリスク要因に着目した教員研修及び授業実践の開発ー 63
 藤 川 大 祐 (千 葉 大 学)
- 14:30 ④ 民主主義教育における少数者への配慮に関する一考察
 ー障害者理解のための文献を中心にー 64
 中 塚 健 一 (太 成 学 院 大 学)

自由研究7

(教育学部A棟324講義室)

司会者：西岡 けいこ (香川大学)
的場 正美 (東海学園大学)

- 13:00 ① 個のイメージの構成過程における社会的相互作用の影響
—音楽鑑賞の授業の分析を通して— 65
横山 真理 (名古屋大学大学院)
- 13:30 ② マキシム・グリーンの「美的教育」
—「ワークショップ」による文化的実践の実現— 66
桂 直美 (東洋大学)
- 14:00 ③ 思春期の子どもにおける自己の「生活」を基盤としたうたづくりの方法の開発
—日本の音楽の手法を手がかりにして— 67
楠井 晴子 (大阪教育大学附属平野中学校)
- 14:30 ④ 音楽科における授業記録に関する研究 68
三小田 美穂子 (国士舘大学)
- 15:00 ⑤ 大学における創作教育の評価方法の研究
—多分野にわたる実践から— 69
○中西 裕 (就実大学), 岡本 悦子 (就実大学)
加藤美奈子 (就実短期大学), 小林 敦子 (就実大学)

自由研究8

(教育学部A棟325講義室)

司会者：小川 博久 (東京学芸大学名誉教授)
高田 清 (安田女子大学)

- 13:00 ① 異なる保育形態における5歳児の拍感の形成過程の特徴
—K保育園の実践過程の分析を中心に— 70
佐野 美奈 (大阪樟蔭女子大学)
- 13:30 ② 保育者養成期における「保育カンファレンス」の効果 71
光本 弥生 (鈴峯女子短期大学)
- 14:00 ③ 保育者養成に於ける「知・行を統一する授業」の開発
—教師を養成する「知・行を統一する授業」の構想— 72
横川 敬信 (元・樟蔭東短期大学)
- 14:30 ④ 教育課程・保育課程にみる保育内容の視点の多様性と差異の検討 (1)
—4, 5歳児の言語に関する記載に焦点を当てて— 73
○芦田 宏 (兵庫県立大学), 箕輪 潤子 (川村学園女子大学)
野口 隆子 (十文字学園女子大学), 上田 敏文 (名古屋市立大学)
中坪 史典 (広島大学), 門田 理世 (西南学院大学)
鈴木 正敏 (兵庫教育大学), 秋田喜代美 (東京大学)
小田 豊 (聖徳大学)
- 15:00 ⑤ 教育課程・保育課程にみる保育内容の視点の多様性と差異の検討 (2)
—4, 5歳児の自然科学に関わるねらい・内容— 74
○箕輪 潤子 (川村学園女子大学), 芦田 宏 (兵庫県立大学)
野口 隆子 (十文字学園女子大学), 上田 敏文 (名古屋市立大学)
中坪 史典 (広島大学), 門田 理世 (西南学院大学)
鈴木 正敏 (兵庫教育大学), 秋田喜代美 (東京大学)
小田 豊 (聖徳大学)

10月5日(土) 15:50~18:20

公開シンポジウム

授業研究による教師の力量形成

(教育学部C棟C1講義室)

コーディネーター・司会者

金 本 良 通 (埼 玉 大 学)

深 澤 広 明 (広 島 大 学)

提案者

千々布 敏 弥 (国立教育政策研究所) 校内研究と教師の成長 75

石 井 英 真 (京 都 大 学) 授業研究における教師の学びの質を問い直す
—戦後授業研究史の展開をふまえて— ... 77

北 田 佳 子 (埼 玉 大 学) 校内授業研究で育まれる教師の専門性とは ... 79

指定討論者

秋 田 喜代美 (東 京 大 学)

〈設定趣旨〉

授業研究は、戦前から続く日本の教師の優れた実践として海外でも注目を集めており、近年、「学び続ける教員を支援する仕組みの構築」(平成24年8月中教審答申)という観点から、日本でもさまざまな検討がなされている。しかし、授業研究としての校内研修を実施している学校は多いものの、それが学校現場を基盤とした教師の学習システムとして確立しているとは言いがたく、また、授業研究のなかでいかなる専門性がどのように育まれるのかという問題に関する研究も緒についたばかりである。

このような現状を踏まえ、本シンポジウムでは、専門家としての教師が生涯学び続けるための基盤として、校内の授業研究がどのような可能性を有しているのか、またその実践にはどのような課題が存在しているのかについて、さまざまな視点から検討を行いたい。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第一日 (10月5日(土)) 11:20~12:10

会 場 : 教育学部C棟C1講義室

主な議題 : 会務報告

2012年度決算

2014年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第一日 (10月5日(土)) 18:30~20:00

会 場 : 第1食堂

会 費 : 4,000円

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまのご参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第42巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。

10月6日(日) 9:00~12:10

自由研究9

(教育学部A棟113講義室)

司会者：豊田 ひさき (中部大学)
富士原 紀絵 (お茶の水女子大学)

- 9:00 ① 明治初期における問答教授法と書字教育 81
鈴木 貴史 (東京福祉大学)
- 9:30 ② 奈良女子高等師範学校附属小学校の学習法における身体
—「修養」・「姿勢」・「肚腰練成」— 82
齋藤 智哉 (國學院大學)
- 10:00 ③ 木下竹次の「学習法」の継承と生成
—奈良女附小・廣岡正昭教諭の実践を中心にして— 83
岩花 春美 (いなべ市立丹生川小学校)
- 10:30 ④ 生活科学習における合科学習の意義と可能性 84
山崎 早苗 (有明教育芸術短期大学・非常勤)
- 11:00 ⑤ 地域の素材を活かした総合的学習の実践事例
—J. デューイの仕事学習との関連— 85
梶原 郁郎 (愛媛大学)
- 11:30 ⑥ デューイ実験学校における授業としてのレシテーションの特質に関する考察
—デューイのレシテーションの概念を手がかりにして— 86
森 久佳 (大阪市立大学)

自由研究10

(教育学部A棟112講義室)

司会者：新井 英靖 (茨城大学)
庄井 良信 (北海道教育大学)

- 9:00 ① 言語行為論からみた言語活動の組織化に関する一考察 87
森井 悠太 (広島大学大学院)
- 9:30 ② 小学校の教室における「第三の空間」の成立
—子どもをディスコースに組み込んでいく教師の応答に着目して— ... 88
笹屋 孝允 (東京大学大学院)
- 10:00 ③ 小学校外国語活動における文字指導
—子どもの言語経験からフォニックスへのつながりを意識して— 89
赤沢 真世 (立命館大学)
- 10:30 ④ ヴィゴツキーの児童学研究と最近接発達領域概念への影響 90
岡花 祈一郎 (福岡女学院大学)
- 11:00 ⑤ 言語の機能論的解釈をめぐるヴィゴツキーとポテブニャ、フンボルトの比較研究 ... 91
伊藤 美和子 (神戸大学・非常勤)
- 11:30 ⑥ 日本の小学校社会科教科書における言語学的研究
—小学校「教科書コーパス」の分析を通して— 92
深谷 圭助 (中部大学)

自由研究11

(教育学部A棟214講義室)

司会者：阿部 昇(秋田大学)
藤原 幸男(琉球大学)

- 9:00 ① 「学びの場」の時空間
—「関(しきい)」として、そして「辺(ほとり)」へと— 93
牧戸 章(滋賀大学)
- 9:30 ② 学習課題の遂行と参加構造 94
金田 裕子(南山大学)
- 10:00 ③ 授業研究におけるクレス(G. Kress)の社会記号論 95
八木 秀文(安田女子大学)
- 10:30 ④ 自己形成としてのBildung観に基づく幼年期カリキュラムに関する一考察
—ドイツ・ノルトライン＝ヴェストファーレン州のBildung計画に着目して— ... 96
中西 さやか(名古屋立大学短期大学部)
- 11:00 ⑤ ベルリンの全日制基礎学校(Ganztagsgrundschule)に関する一考察
—ベルリン陶冶プログラムを手がかりとして— 97
百々 康治(至学館大学)
- 11:30 ⑥ 授業リフレクション研究による校内研改革10年後の考察
—ボトムアップ型授業デザイン改革事例の考察— 98
○澤本 和子(日本女子大学)
○神原 裕子(日本女子大学大学院)

自由研究12

(教育学部A棟213講義室)

司会者：木原 俊行(大阪教育大学)
三石 初雄(東京学芸大学)

- 9:00 ① ビジュアル・シンキングを用いた園内研修の研究
—保育者の意見の出しやすさ/出しにくさに着目して— 99
○保木井啓史(広島大学大学院)
濱名 潔(広島大学大学院), 境 愛一郎(広島大学大学院)
- 9:30 ② 教科書に準拠したメディア教材の出現の歴史的意味
—幻燈スライド集『日本周遊』の教育的価値— 100
佐藤 知条(湘北短期大学)
- 10:00 ③ ICT環境における教育方法の模索
—求められる教師像と「紙と鉛筆で始める情報教育」— 101
安谷 元伸(滋賀大学教育学部附属中学校)
- 10:30 ④ 教職志望学生の成長観の変容とライフヒストリー
—在学から卒業までの継続調査をもとに— 102
姫野 完治(秋田大学)
- 11:00 ⑤ 教員養成の高度化に向けた実質化の取組に関する調査研究
—米国のPDSの現在の取り組み課題を中心に— 103
小柳 和喜雄(奈良教育大学)
- 11:30 ⑥ ユビキタス映像記録視聴システムを活用した
教職課程履修生の授業実践能力育成支援の試みⅢ 104
○平山 勉(名城大学), ○後藤 明史(名古屋大学)
竹内 英人(名城大学)

10月6日(日) 9:00~12:10

自由研究13

(教育学部A棟212講義室)

司会者：寺岡英男(福井大学)
渡部淳(日本大学)

- 9:00 ① 学習サポートがピアリーダー学生にもたらす効果
ー担当教員へのインタビュー調査の結果からー 105
宮橋小百合(四国学院大学)
- 9:30 ② 多様な価値観の共生がもたらす学習成果の質的変容
ー受講者が100名を超す一斉授業を事例にー 106
早坂淳(長野大学)
- 10:00 ③ 英語使用者の領域と教師の領域をどう両立・往還させるか
ー教員養成課程専門科目における教授内容知識の学習過程ー 107
亘理陽一(静岡大学)
- 10:30 ④ ドラマ手法を用いた教職科目のレッスン
ーもし私が……だったらー 108
青木幸子(昭和女子大学)
- 11:00 ⑤ 近代教育制度における教育実践の方向性克服の試み
ー「保育者」のふるまいの演劇的再構成ー 109
○小川博久(東京学芸大学名誉教授)
○岩田遵子(東京都市大学)

自由研究14

(教育学部A棟210講義室)

司会者：阿部好策(新潟大学)
片上宗二(安田女子大学)

- 9:00 ① 社会科における数理的意味決定力の育成に関する提案
ーシミュレーション学習を中心にー 110
太田貴之(千葉大学大学院)
- 9:30 ② M. マクロフリンの研究の系譜における教師の
「専門家共同体 (professional community)」の形成と展開 111
鈴木悠太(東京大学・特任講師)
- 10:00 ③ 小中高一貫有権者教育のためのカリキュラムフレームワークの構想
ー小学生に対する認知変容調査に基づいてー 112
桑原敏典(岡山大学)
- 10:30 ④ 教育内容構成へのチャンネル理論の応用
ー理科授業における諸活動と目標の組織化に着目してー 113
大野栄三(北海道大学)
- 11:00 ⑤ 保幼小連携が教師・保育士に及ぼす影響に関する一考察
ー東京都北区の事例からー 114
○小林祐一(東京都北区教育委員会)
○野田修二(東京都北区教育委員会)

10月6日(日) 9:00~12:10

自由研究15

(教育学部A棟324講義室)

司会者：小 泉 祥 一 (東 北 大 学)
西 岡 加名恵 (京 都 大 学)

- 9:00 ① 校内メンタリングにおける管理職の参加についての分析
ーメンターチームを題材としてー 115
○町支 大祐 (東京大学大学院), 脇本 健弘 (青山学院大学)
讃井 康智 (東京大学大学院), 中原 淳 (東京大学)
- 9:30 ② 校内メンタリングの効果的手法に関する研究
ーメンターチームを題材としてー 116
○脇本 健弘 (青山学院大学), 町支 大祐 (東京大学大学院)
讃井 康智 (東京大学大学院), 中原 淳 (東京大学)
- 10:00 ③ キャパシティ・ビルディングにもとづく学校改善
ー米国における組織モデルによる授業改善と学校文化の醸成を中心にー ... 117
黒 田 友 紀 (静 岡 大 学)
- 10:30 ④ 教育課程編成における四者協議会と地域 DE 子ども見守り隊の位置と意義 (その1)
ー埼玉県志木市立志木第二中学校の事例研究ー 118
坂 本 徳 雄 (国士舘大学大学院)
- 11:00 ⑤ 臨床的教師研修〈分かちあい〉による教師また学生の授業指導力向上に関する実践研究
ー国際授業交流また学生授業研修をつうじての報告からー 119
○小 島 勇 (東京電機大学)
○野 坂 秀 樹 (埼玉県比企郡滑川町立宮前小学校)

10月6日(日) 13:15~15:15

課題研究Ⅲ

教育方法学の学問的固有性とは何か

— 教育方法学の研究方法 —

(教育学部A棟214講義室)

コーディネーター

池野 範 男 (広島大学)

中野 和 光 (美作大学)

司会者

中野 和 光 (美作大学)

山崎 準 二 (学習院大学)

提案者

池野 範 男 (広島大学) 解釈学を基盤とした教科授業研究とその方法

— 社会科授業づくりを事例として — …… 120

藤江 康 彦 (東京大学) 教育方法学の「臨床」性と「実証」的研究方法

…………… 122

澤田 稔 (上智大学) 批判的教育学の方法

— 社会的公正のためのカリキュラム・教育方法へ —

…………… 124

〈設定趣旨〉

ヘルバルトは、学問の内容について、「原理からの結果、原則からの原理として、相互に引き出されることが可能な思考の全体をなす、命題の分類整理である」と述べている。学問であることの基準は、この論述に見られるように、命題が論理的に相互に矛盾なしに配列されていることを必要とする。学問であることの基準は、今日から見て、いまひとつ、データの取り扱いが研究方法の基準ののっとなっていることが重要である (Walter Theimer, Was ist Wissenschaft?, Francke, 1985, S. 9-10)。この研究方法に関しては、教育方法学の研究においては、主に、解釈学的方法、実証科学 (経験科学) の方法、批判科学 (批判的教育学) の三つが提示されている。本課題研究においては、それぞれの研究方法について、典型的な事例にもとづいて、具体的に検討してみたい。

〔会員企画課題研究〕課題研究Ⅳ

学びの共同体の意義と課題の検討

(教育学部C棟C1講義室)

コーディネーター

子 安 潤 (愛 知 教 育 大 学)

今 宮 信 吾 (関 西 大 学)

司会者

子 安 潤 (愛 知 教 育 大 学)

藤 原 顕 (福 山 市 立 大 学)

提案者

佐 藤 学 (学 習 院 大 学) 学びの共同体の学校改革

ーヴィジョンと哲学と活動システムー … 125

久 田 敏 彦 (大 阪 教 育 大 学) 学習集団論の発展的継承からみた「学びの共同体」論の課題

…………… 127

今 宮 信 吾 (関 西 大 学) 「学びの共同体」で学校は変えられるのか

ー教育現場からの提案ー …………… 129

〈設定趣旨〉

「学びの共同体」という提案がなされて20年あまりが経過し、全国に一定の広がりを見せ、教育方法学研究の諸論文でもしばしば論及されるようになっている。学びにおける共同性や共同的な学校づくりに大きな関心がよせられている一つの現れと考えられる。

そこで、本課題研究では、この提案の今日的な理論的・実践的な意義と課題が浮かび上がらせてみたい。すでに、「学びの共同体」については、各地の学校において実践的研究が追求され、その蓄積もあると考えられる。それらの中でもとりわけ重要な点は何か、今日の学校状況の中で検討することが期待される。他方で、その理論と実践について、共同体と集団との異同、あるいは授業づくりの枠組み等について課題も提出されている。こうした諸側面について、建設的な意見交換を図りたい。

〔会員企画課題研究〕課題研究V

学校教育における思考力の育成

— 感性に着目して —

(教育学部A棟324講義室)

コーディネーター

小島 律子 (大阪教育大学)

的場 正美 (東海学園大学)

司会者

小島 律子 (大阪教育大学)

田上 哲 (九州大学)

提案者

森本 信也 (横浜国立大学) 子どもの科学概念構築過程に見る比喩的表現の意味と意義
— 小学校理科授業を事例にして — …… 130

清村 百合子 (京都教育大学) 音楽科授業における感性の役割
— 音色を探究する授業の事例より — …… 132

早川 操 (名古屋大学) 反省的美的経験による想像力の育成
— デューイ実験室学校の実践事例分析より —
…………… 134

〈設定趣旨〉

学校教育における思考力の育成は、これまで概念の習得や論理的思考の育成など理性的側面からの追求がなされてきた。これに加え、近年、子どもの自然現象に対する驚きや興味、イメージや想像力など思考力育成における感性の役割が注目されている。本課題研究は、具体的な授業実践の記録を基礎にし、次の問いを検討することを通して、思考力育成における感性の役割を明らかにしたい。1) 感性は各教科教育においてどのような位置と役割を有するのか、2) 感性を重視する授業は各教科におけるどのような学習指導観や子ども観の転換を意図しているのか、3) 授業において思考と感性はどのように関係しているのか。

10月6日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル①

演劇的知の教育方法学的検討(1)

— 授業研究における身体性 —

(教育学部A棟113講義室)

企画者

渡部 淳(日本大学)

司会者

深澤 広明(広島大学)

提案者

宮原 順寛(北海道教育大学)

共同研究者

三橋 謙一郎(徳島文理大学)

武田 富美子(立命館大学)

青木 幸子(昭和女子大学)

宮崎 充治(桐朋小学校)

和田 俊彦(跡見学園高校)

渡辺 貴裕(帝塚山大学)

中野 貴文(熊本大学)

藤井 洋武(日本大学)

〈設定趣旨〉

5年間にわたって継続したラウンドテーブル「教育方法のトポロジー」では、“ドラマワーク”を主なキーワードとして、教育における演劇的手法の活用可能性を様々な事例をもとに検討した。そのうえで昨年度は、より原理的な考察を加えるべく「教育における演劇的知・再考」をテーマに掲げた。

この流れを受けて、本年度から“演劇的知”をキーワードとする新たな研究の展開を企図している。まず今回は、授業研究の契機としての身体性について検討してみたい。

検討の素材を、長崎県および北海道で校内研修の現場に深くコミットし続けている宮原順寛氏から提案していただく。

授業における学習者と教師と参与観察者の身体性の象り(かたどり)と関わりは、どのように記述され、どのように語り合われうるのだろうか。フィールドワークや実践記録の分析等から宮原氏が析出した知見を手がかりとして討議してみたい。

ラウンドテーブル②

インクルーシブ授業方法の検討

— 国語科の授業を通して —

(教育学部A棟112講義室)

企画者

湯 浅 恭 正 (大 阪 市 立 大 学)

提案者

新 井 英 靖 (茨 城 大 学)

河 野 護 (茨城県常陸大宮市立大宮小学校)

稲 田 八 穂 (筑 紫 女 学 園 大 学)

吉 田 茂 孝 (福 岡 教 育 大 学)

〈設定趣旨〉

インクルーシブ教育の展開とともに通常の学校・学級における授業方法の検討が求められている。教育方法学会においては、学級論を基盤にした特別支援教育の授業の在り方について検討されてきたが、授業方法の課題については探究が始められたばかりの状況にある。一方、この研究課題に対しては、ユニバーサルデザインの授業づくり論などいくつかの実践動向も見られるが、そもそもインクルーシブ授業の理論的枠組みは何か、また授業の課題である教科指導論に関わっての授業方法の在り方は何か等、本質的な議論は進められてはいない。

そこで、このラウンドテーブルでは、一つの国語科の授業実践を取り挙げて、そこにこれからのインクルーシブ授業方法の構造と展開を解明するための視点を発見することを目的にする。共同研究として取り組んできた新井氏・河野氏の提案をもとにして、国語科教育の立場から稲田氏、教育方法学の立場から吉田氏にコメントしていただき、上記の課題を深める。

国語科教育固有の課題とインクルーシブ授業との関連は何か、特別支援教育に関連する研究方法自体が不安定であり、特に教育方法学という授業研究を中心に探究してきた立場から、インクルーシブ授業方法の研究手法に求められるものは何か、またインクルーシブ授業の探究は、これまでの授業研究の方法にどのような新しい知見を示唆するのかといった論点も意識しながら、検討を進めたいと考えている。

ラウンドテーブル③

〈分かちあい〉研修による教師・学生の
授業指導力向上に関するとりくみ
— 国際授業研究交流・学生授業研修を通じての実践から —

(教育学部A棟213講義室)

企画者

小 島 勇 (東京電機大学)

提案者

野 坂 秀 樹 (埼玉県比企郡滑川町立宮前小学校)

広 瀬 ゆうじ (東京電機大学理工学部・学生)

〈設定趣旨〉

〈分かちあい〉研修は、教師の成長と発達を支援する方法であり、また教師相互の互恵的研修関係と同僚性を育成し、教師のメンタルケアも保証するものである^(注1)。

また、〈分かちあい〉研修方法の適用実践面である、授業研究においても1996年以降の埼玉大学での教職科目での実践、2002年以降、東京電機大学理工学部における授業実践、また同時に小島研究室の学生授業研修実行委員による自主的授業研修会、また現職教員との授業研究交流にも十分な連携研究協議が可能であり、授業者の指導力向上と参加者による互恵の関係づくりにも効果的があることを実践研究から明らかにしてきた。

本学会では、1995(平7)年10月第28回大会(筑波大)を最初に、1997(平9)年第33回大会(横国大)、2002(平14)年9月第39回大会(滋賀大)、また2010(平22)年第46回研究大会(国士館大)では〈研究発表〉と同時に〈(学生たちの手による)ラウンドテーブル〉で発表を重ねてきた。

本ラウンドテーブルでは、これまでの研究発表をまとめながら、ここ数年、上海また台湾での講演と研修指導で〈分かちあい〉研修が、国際授業研究交流の方法としても実践的かつ効果があること、現職研修の新たな展開なども事例から報告したい。また、これまでの卒業生教員や教育関係者らも共同発表する予定である。

^(注1) 〈分かちあい〉研修は、1996年(平成8)以来、小島が東京学芸大学博士課程研究の臨床研修研究を通じて、実践の中から開発し、その効果を提案してきたものである(注:着想は現職中学教員時代)。実践研究からの考察と検証は、拙著『臨床的教師研修』(北大路書房、2004)に詳しい。

ワークショップ

授業逐語記録にもとづく比較授業分析
— マレーシアの高校数学授業における知識構成を中心に —
(教育学部A棟212講義室)

企画者

柴田好章(名古屋大学)

提案者

サルカール アラニ・モハメッド レザ(帝京大学)

久野弘幸(愛知教育大学)

〈設定趣旨〉

本ワークショップでは、提案者らが協同して研究を進めている比較授業分析を行う。比較授業分析は、逐語記録にもとづく質的な授業分析の方法を用いて、異なる国の授業の共通性や差異から、互いに有益な知見を見いだすことをめざしている。昨年度、一昨年度にひきつづき本ワークショップでは、海外の授業記録の分析を協同で行う。今年度は、マレーシアの高等学校の理科授業を対象とする。

ワークショップでは、まず、提案者側から、分析対象授業の紹介を行う。そして、そして、ワークショップの参加者にも、マレーシアの授業記録の一部を示した上で、実際に分析を行ってもらい、意見交換をする。今回の授業分析では、特に学習者の知識構成に着目する。

比較授業分析によって、国を超えて、授業あるいは学習という事象における共通する知見や課題が明らかになると予想される。また、両国の教育の制度や文化背景を考慮しつつ比較文化論的に考察することによって、授業の有する文化的固有性や共通性についても明らかになると予想される。さらに、文化複合の観点から提案者らが行っている最新の研究成果の一部も提案する。参加者も交えてディスカッションを行い、授業という複雑な事象に対する研究アプローチのあり方を考えた

い。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1983	(2,472円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	一新学習指導要領の教育方法学的検討一	1999	(1,953円)
			(価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。
この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2004	(1,995円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2005	(1,995円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業		
	一どのような学力を形成するか一	2006	(2,100円)
教育方法36.	リテラシーと授業改善		
	一PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究一	2007	(2,100円)
教育方法37.	現代カリキュラム研究と教育方法学		
	一新学習指導要領・PISA型学力を問う一	2008	(2,100円)
教育方法38.	言語の力を育てる教育方法	2009	(2,100円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2010	(2,100円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2011	(2,100円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2012	(2,100円)
			(価格は税込)

最新刊・教育方法42. 教師の専門的力量と教育実践の課題

〈内 容〉

- I 教育改革の動向に対応する教師
- II 教室の多様な子どもに取り組む教師
- III 教育実践を支える教師の養成
- IV 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516